

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年11月10日

【四半期会計期間】 第76期第2四半期(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

【会社名】 上新電機株式会社

【英訳名】 Joshin Denki Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役兼社長執行役員 金 谷 隆 平

【本店の所在の場所】 大阪市浪速区日本橋西一丁目6番5号

【電話番号】 大阪 06(6631)1161

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 財務戦略担当 大 代 卓

【最寄りの連絡場所】 大阪市浪速区日本橋西一丁目6番5号

【電話番号】 大阪 06(6631)1161

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 財務戦略担当 大 代 卓

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第2四半期 連結累計期間	第76期 第2四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高 (百万円)	197,918	197,483	408,460
経常利益 (百万円)	4,119	4,549	8,317
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	3,006	3,110	4,972
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,932	3,724	4,733
純資産額 (百万円)	99,562	102,437	100,698
総資産額 (百万円)	222,584	235,151	223,218
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	112.32	117.72	186.77
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	44.7	43.6	45.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,620	7,370	7,119
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,182	2,284	9,070
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	91	2,339	2,360
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,706	5,516	2,769

回次	第75期 第2四半期 連結会計期間	第76期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	74.34	94.23

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 1株当たり情報の算定上の基礎となる「普通株式の期中平均株式数」は、役員向け株式交付信託口が保有する当社株式を控除しております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類移行を契機として、国内外の人の流れが活発化し、正常化に向けた動きとなりました。しかしながら、ウクライナ紛争の長期化、中国経済の悪化懸念、世界的な原材料価格の高騰や円安による諸物価の値上がりに加えて、世界的な金融引き締め等の要因もあり、景気の先行きは極めて不透明な状態が続きました。

当家電販売業界におきましても、過年度のコロナ禍における需要の前倒しの反動や、物価高に起因する消費の伸び悩み、行動制限緩和によるレジャー支出の増加等から、新製品への買い替えタイミングとなった携帯電話等一部を除いて、どの商品群もおしなべて前年実績を下回る状況が続いておりました。しかしながら、当社グループがオフィシャルスポンサーを務める「阪神タイガース」が念願の18年ぶりのリーグ優勝を達成したことにより、短期間ではありましたがセール開催が実現し、当社グループ各店舗に多くのお客様が来店され、将来の事業基盤となる新規会員の大幅な増加につながりました。

今後の商環境におきましても、不透明な景気の見通しを背景として、世界的な地域紛争激化等地政学的リスクの拡大、原材料高騰等に起因する各種経済指標の悪化、消費マインドや可処分所得の低下による耐久消費財に対する需要の低迷等から、同業者間の競争はますます激しくなることが予想されます。

このような状況下、2023年3月期決算発表時に公表しました、今年度を初年度とする3カ年の中期経営計画『JT-2025 経営計画』に当社グループ一丸となって取り組んでおります。この計画は、当社グループが目指す、2030年にあるべき姿「地域社会の成長を支え、人と環境の未来に貢献する企業」へと進化すべく、バックキャストの思考で2025年度を通過点とし、お客様の課題解決、お役立ち実現による顧客生涯価値の創出を目指した計画であります。この計画に基づく各種目標達成に向け、より具体的な戦略を立案、実行し、当社グループ一丸となって着実に計画を遂行してまいります。

店舗展開につきましては、引き続き店舗力の強化と投資効率の改善を目指す、適切なスクラップアンドビルドの方針のもと、第1四半期連結会計期間においてグループ子会社が運営する非家電の店舗を1店舗撤収した結果、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は215店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高197,483百万円(前年同四半期比99.8%)、営業利益4,586百万円(前年同四半期比111.7%)、経常利益4,549百万円(前年同四半期比110.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益3,110百万円(前年同四半期比103.4%)となりました。また、販売チャネル別の連結売上高は、店頭販売が163,356百万円(前年同四半期比102.0%)、インターネット販売が31,463百万円(前年同四半期比88.3%)、その他が2,664百万円(前年同四半期比123.4%)となりました。

当社グループの事業は、家電製品等の小売業並びにこれらの付帯業務の単一事業であり、開示対象となるセグメントはありませんので、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結会計期間末は前連結会計年度末に比べ、資産は、流動資産が12,822百万円増加し、固定資産が889百万円減少したため、合計で11,932百万円増加しました。

負債は、流動負債が6,435百万円増加し、固定負債が3,758百万円増加したため、合計で10,193百万円増加しました。

純資産は、利益剰余金の増加等により株主資本が1,189百万円増加し、その他の包括利益累計額が549百万円増加したため、合計で1,739百万円増加しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を上回った結果、全体としては2,746百万円の収入となり、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は5,516百万円(前年同四半期比148.8%)になりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の増加7,132百万円、税金等調整前四半期純利益4,527百万円、減価償却費2,795百万円、前受金の増加1,543百万円、未収入金の増加3,524百万円、棚卸資産の増加3,190百万円、売上債権の増加3,011百万円等があり、全体では7,370百万円の収入と前年同四半期と比べ2,750百万円の増加(前年同四半期4,620百万円の収入)になりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、店舗改装等による有形固定資産の取得及び差入保証金の差入による2,792百万円の支出、有形固定資産の売却による357百万円の収入、投資有価証券の売却による収入318百万円等があり、全体では2,284百万円の支出と前年同四半期と比べ898百万円の増加(前年同四半期3,182百万円の支出)になりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払1,983百万円及びファイナンス・リース債務の返済による支出390百万円等があり、全体では2,339百万円の支出と前年同四半期と比べ2,247百万円の減少(前年同四半期91百万円の支出)になりました。

(3) J T - 2025 経営計画(2023年4月1日~2026年3月31日)について

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した同経営計画の基本方針、連結目標数値等に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	99,000,000
計	99,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,000,000	28,000,000	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株でありま す。
計	28,000,000	28,000,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年9月30日		28,000		15,121		5,637

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	2,100	7.93
上新電機社員持株会	大阪市浪速区日本橋西1丁目6-5	1,906	7.20
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2-1	1,200	4.53
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	1,000	3.77
シャープ株式会社	堺市堺区匠町1番地	542	2.04
損害保険ジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿1丁目26-1	506	1.91
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	478	1.80
ダイキン工業株式会社	大阪市北区梅田1丁目13-1大阪梅田ツイン タワーズ・サウス	447	1.69
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	420	1.58
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-5	400	1.51
計		9,001	34.00

(注) 1. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 2,098千株
 株式会社日本カストディ銀行(信託口) 328千株

2. 上記のほか当社保有の自己株式1,528千株があります。

3. 2023年4月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、株式会社りそな銀行及びその共同保有者であるりそなアセットマネジメント株式会社が2023年4月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、りそなアセットマネジメント株式会社については、当社として2023年9月30日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2-1	1,200	4.29
りそなアセットマネジメン ト株式会社	東京都江東区木場1丁目5-65	339	1.21

4. 2023年8月4日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、三井住友信託銀行株式会社及びその共同保有者である三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及び日興アセットマネジメント株式会社が2023年7月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、うち三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及び日興アセットマネジメント株式会社については、当社として2023年9月30日時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書の変更報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4-1	420	1.50
三井住友トラスト・アセ ットマネジメント株式会社	東京都港区芝公園1丁目1-1	661	2.36
日興アセットマネジメン ト株式会社	東京都港区赤坂9丁目7-1	261	0.93

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,528,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,282,000	262,820	
単元未満株式	普通株式 189,600		
発行済株式総数	28,000,000		
総株主の議決権		262,820	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、役員向け株式交付信託口保有の当社株式51,400株(議決権の数514個)が含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式49株及び役員向け株式交付信託口保有の当社株式75株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 上新電機株式会社	大阪市浪速区日本橋西 一丁目6番5号	1,528,400		1,528,400	5.45
計		1,528,400		1,528,400	5.45

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2023年7月1日から2023年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,769	5,516
売掛金	17,708	20,719
商品	76,101	79,302
その他	18,009	21,872
貸倒引当金	28	28
流動資産合計	114,560	127,382
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	40,269	39,811
土地	27,504	27,202
その他(純額)	7,311	7,395
有形固定資産合計	75,085	74,409
無形固定資産	2,471	2,447
投資その他の資産		
差入保証金	12,810	12,784
その他	18,333	18,169
貸倒引当金	43	43
投資その他の資産合計	31,100	30,911
固定資産合計	108,657	107,768
資産合計	223,218	235,151

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,152	35,285
短期借入金	2,200	-
1年内返済予定の長期借入金	11,156	10,488
コマーシャル・ペーパー	15,000	14,000
未払法人税等	1,438	1,498
賞与引当金	2,812	2,962
ポイント引当金	33	36
店舗閉鎖損失引当金	3	-
その他	23,579	26,541
流動負債合計	84,376	90,812
固定負債		
長期借入金	17,608	21,510
退職給付に係る負債	104	108
資産除去債務	3,581	3,588
その他	16,849	16,694
固定負債合計	38,143	41,901
負債合計	122,520	132,713
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,121	15,121
資本剰余金	18,802	18,802
利益剰余金	67,647	68,837
自己株式	2,810	2,811
株主資本合計	98,760	99,950
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,755	4,365
土地再評価差額金	1,198	1,263
退職給付に係る調整累計額	619	614
その他の包括利益累計額合計	1,937	2,487
純資産合計	100,698	102,437
負債純資産合計	223,218	235,151

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	197,918	197,483
売上原価	146,724	144,615
売上総利益	51,193	52,868
販売費及び一般管理費	47,089	48,282
営業利益	4,104	4,586
営業外収益		
受取利息	16	14
受取配当金	65	72
受取手数料	36	33
受取保険金及び配当金	58	58
その他	33	23
営業外収益合計	211	203
営業外費用		
支払利息	74	91
家賃地代	11	2
証券代行事務手数料	72	112
その他	37	33
営業外費用合計	196	240
経常利益	4,119	4,549
特別利益		
固定資産売却益	461	64
投資有価証券売却益	21	145
特別利益合計	482	209
特別損失		
固定資産売却損	9	-
固定資産除却損	107	193
減損損失	315	38
その他	63	-
特別損失合計	496	232
税金等調整前四半期純利益	4,105	4,527
法人税、住民税及び事業税	694	1,088
法人税等調整額	404	329
法人税等合計	1,098	1,417
四半期純利益	3,006	3,110
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,006	3,110

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	3,006	3,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37	609
退職給付に係る調整額	36	4
その他の包括利益合計	74	614
四半期包括利益	2,932	3,724
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,932	3,724
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,105	4,527
減価償却費	2,629	2,795
減損損失	315	38
賞与引当金の増減額(は減少)	94	149
ポイント引当金の増減額(は減少)	12	3
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	-	3
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	240	175
受取利息及び受取配当金	82	87
支払利息	74	91
投資有価証券売却損益(は益)	21	145
固定資産売却損益(は益)	451	64
固定資産除却損	107	193
売上債権の増減額(は増加)	4,162	3,011
棚卸資産の増減額(は増加)	8,642	3,190
仕入債務の増減額(は減少)	3,326	7,132
未収入金の増減額(は増加)	2,345	3,524
前受金の増減額(は減少)	1,623	1,543
未払消費税等の増減額(は減少)	307	1,006
その他	519	1,138
小計	2,223	8,417
利息及び配当金の受取額	66	72
利息の支払額	74	88
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	2,405	1,030
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,620	7,370
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	4,300	2,674
有形固定資産の売却による収入	1,372	357
投資有価証券の取得による支出	-	10
投資有価証券の売却による収入	125	318
差入保証金の差入による支出	118	117
差入保証金の回収による収入	190	157
その他	452	314
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,182	2,284
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	500	2,200
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	33,000	35,000
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	28,000	36,000
長期借入れによる収入	3,200	10,100
長期借入金の返済による支出	6,308	6,865
ファイナンス・リース債務の返済による支出	473	390
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	2,009	1,983
財務活動によるキャッシュ・フロー	91	2,339
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,345	2,746
現金及び現金同等物の期首残高	2,360	2,769
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,706	5,516

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
給与及び手当	12,278百万円	12,543百万円
賞与引当金繰入額	2,553百万円	2,666百万円
退職給付費用	318百万円	363百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金勘定	3,706百万円	5,516百万円
現金及び現金同等物	3,706百万円	5,516百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,011	75	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員向け株式交付信託口に対する配当金3百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
 後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,985	75	2023年3月31日	2023年6月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、役員向け株式交付信託口に対する配当金3百万円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
 後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社グループは、家電製品等の小売業並びにこれらの付帯業務の単一事業であり、開示対象となるセグメントは
 ありませんので、セグメント情報の記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社グループは、家電製品等の小売業並びにこれらの付帯業務の単一事業であり、開示対象となるセグメントは
 ありませんので、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは、家電製品等の小売業並びにこれらの付帯業務を営む単一セグメントであり、顧客との契約から生
 じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
一時点で認識する収益	194,752百万円	194,248百万円
一定期間にわたって認識する収益	2,689百万円	2,760百万円
顧客との契約から生じる収益	197,442百万円	197,009百万円
その他の収益	476百万円	474百万円
外部顧客への売上	197,918百万円	197,483百万円

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益	112円32銭	117円72銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	3,006	3,110
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	3,006	3,110
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,770	26,420

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 株主資本において自己株式として計上されている役員向け株式交付信託口に残存する当社株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
 1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間、当第2四半期連結累計期間いずれも51千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月9日

上新電機株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村上 和久

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 内田 聡

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている上新電機株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、上新電機株式会社及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。